

与謝野町

自分ごと化会議からの提案

～与謝野町の公共交通を考える～



令和7年3月

内容

～ はじめに ～	- 1 -
I 「与謝野町自分ごと化会議」の概要.....	- 2 -
II 未来に向けて地域の交通を考えよう.....	- 4 -
III 与謝野町の公共交通の現状と委員からの意見.....	- 8 -
IV 自分ごと化会議に参加して、変化したこと.....	- 13 -

～ はじめに ～

与謝野町では、少子化や人口移動による人口減少に加え、老年人口割合の急増により、急速な勢いで超高齢化社会に向かって進んでいます。

住民の交通環境については、世帯当たりの自動車保有台数が高く、自家用車による移動が中心となっているため、高齢者の運転免許保有率は高いものの、75 歳以上では急減し、高齢化による運転免許証自主返納者数は増加傾向にあります。

こうした中、運転免許証を保有していない高齢者や障がい者、一人では移動が困難で支援を必要とされる方などは、主に民間事業者が運行する路線バスやよさの乗合交通、福祉有償運送等を利用されています。これら移動手段は、各運行事業者によって安定的なサービス提供のための努力がなされているものの、行政による支援なくしては維持が困難な状況が続いています。

このように、地域の交通を取り巻く環境は、行政の厳しい財政状況や人口減少によるニーズの低下、サービスを提供する担い手の減少に加え、観光客等への移動サービスの提供が求められるなど、様々な課題に直面している状況となっております。

日本全体を見渡しても、公共交通は喫緊に対応すべき課題とされ、国においては日本版ライドシェアの開始やAIオンデマンド交通、自動運転など、新たなモビリティサービスの導入に向けた動きが活発化し、交通分野は大きな変革期を迎えています。

今般、「与謝野町の公共交通を考える」をテーマに住民協議会を開催し、無作為抽出により参加した16歳から83歳までの住民22人が委員となり、令和6年度12月から1月まで全3回にわたり協議を重ねてきました。

この提案書では、第Ⅰ章で会議の概要を、第Ⅱ章でこの町の将来のために自分ができること、地域でできること、行政の役割の3つの視点から考えて提案を行い、第Ⅲ章で与謝野町の公共交通の現状と課題について理解を深めたうえで、それぞれが抱えている課題をどう解決していくかを考えてきました。なお、第Ⅳ章では、私たちがこの会議に参加したことで、得た気付きや意識の変化などをまとめました。

今回の住民協議会で、私たちがこの町のためにどう行動するかを常に考え、話し合ったことで、地域の課題を自分ごと化する重要性を再認識しました。

これからもずっと住みたい、住み続けたい町となるためにも、この提案書の有効活用を切望するとともに、地域の関係者が連携・協働し、行政が地域ぐるみで地域の交通や地域のコミュニティを支えていくことを期待します。

令和7年3月
与謝野町自分ごと化会議 2024 委員一同

I 「与謝野町自分ごと化会議」の概要

○テーマ

「与謝野町の公共交通を考える」

○与謝野町自分ごと化会議委員

無作為に抽出し案内を送付した人数	1,800 人
無作為抽出により応募した委員(応募率)	26 人(1.4%)
参加した委員の数(合計)	22 人

○委員一覧(敬称略、五十音順)

石田 素浩	市川 迪彦	井上 正則	円居 典子
下野 稔	氣田 藤彦	塩見 心春	下野 幸正
千賀 絹子	高岡 恵子	角田 昂大	橋本 茂
廣野 金男	廣野 智里	細井 操	椋平 毅
家谷 美知隆	山岡 秀美	山本 龍太郎	吉岡 広幸
吉田 隆雄	ほか 1 名		

※掲載に同意いただいた委員の氏名を掲載。

○与謝野町 ※テーマである「公共交通」に関わる部局として会議に参加

・企画財政課

○政策シンクタンク 構想日本

- ・小瀬村 寿美子(コーディネーター)
- ・伴 幸俊(評価者)
- ・後藤 宏之(評価者、オブザーバー)
- ・坂本 健太(プロジェクトリーダー)

※コーディネーター:会議の進行役

○ナビゲーター

- ・齋藤 喬(内閣官房デジタル行財政改革会議事務局 参事官(国土交通省より出向))

○各回の概要

- ・第1回会議：2024年12月8日(日)
 - ・実施趣旨説明(与謝野町)
 - ・会議の概要説明(構想日本)
 - ・事業説明及び質疑応答
 - ① 京都丹後鉄道利用促進事業
 - ② 地方バス路線運行維持支援事業
 - ③ 地域内公共共通確保維持事業

- ・第2回会議：2024年12月22日(日)
 - ・第1回会議の振り返り
 - ・「改善提案シート」の説明
 - ・ナビゲータープレゼンテーション(齋藤 喬)
 - ・グループ議論
 - ・「改善提案シート」の記入

- ・第3回会議：2025年1月13日(月・祝)
 - ・第2回会議の振り返り
 - ・グループ議論
 - ・「改善提案シート」の記入
 - ・参加住民の感想発表
 - ・記念撮影

○会議風景



Ⅱ 未来に向けて地域の交通を考えよう

与謝野町の公共交通は、高齢化の進行、運転免許自主返納者の増加、核家族化やコミュニティの希薄化により、高齢者や移動手段を持たない人々の間では、そのニーズが高まっています。

一方、人口減少の影響や自家用車への依存がまだまだ根強いいため、地域の公共交通の利用者は今後ますます減少すると想定されています。

これからの公共交通を考える上で、委員の共通意見として、免許返納後や病気・怪我があった際の移動手段に関する課題が指摘されました。近年、高齢者による交通事故のリスクが増加中であり、政府は、認知機能や身体機能の低下による運転の不安を考慮し、高齢者に免許の返納を促しています。

与謝野町では自家用車移動が常態であり、返納しない限り不便はないのが現状ですが、当初は、車がない生活について、実感が湧かないと言っていた委員も、この議論を通じて、今後、誰にでも起こり得る課題だと具体的に考える機会となりました。急に大怪我をしたらどうするのか、自分が家族をどう支えるか、子育て世代の負担の緩和策、自由に移動できなくなるストレスや孤立感等の話題も挙がりました。さらには、公共交通から派生し、親族以外でも気軽に頼れる地域にするにはどうするか、社会との関わりによる地域コミュニティのあり方にも発展しました。

5年後、10年後の見通しが不透明な状況で、人材や財源がなくなっていくことも視野に入れ、今から公共交通を自分ごととして捉え、考えていかなければならないと実感しました。

また、新しい公共交通の手段として、デマンド型交通等の事例についても学び、町が取組みを前進させようと考えている意思是委員に伝わってきました。

そこで、これからも使いやすく安全な移動手段の確保に向け、さらに、住んで良かった、住み続けたいと思えるような町にするために、私たちが考える具体的な意見を付し、以下の通り提案いたします。

提案

1 公共交通の現状と課題について理解を深めよう

提案

2 誰もが使いやすい公共交通のために、まずは使ってみよう

提案

3 豊かな地域コミュニティの力を公共交通へ活かそう

1 公共交通の現状と課題について理解を深めよう

今回の会議を始めたとき、多くの参加者の声は「今は移動に困っていない」、「移動手段は主に自家用車」ということでした。確かに、会議に自分で参加できる方は自力で移動ができる方です。しかし、急に公共交通が必要となったとき、もしかしたら自分たちが使いやすい公共交通ではないかもしれません。まずは町民一人ひとりが公共交通にもっと関心を持ち、しっかり現状と課題を理解し、地域の人々と共有していく必要があります。

「提案1」の実現に向けて、それぞれが行うこと(委員からの意見(抜粋))

改善 提案	個人の 取り組み	● 現状を知り、改善に向けて自主的に取り組む ● 誰しも自動車が運転できなくなる時を考えてみる ● 乗合交通など公共交通について親、友達に教える ● 自家用車の使用を控えるなど認識を変える ● 他の人の意見を聞く
	地域の 取り組み	● 実態、課題をみんなで学習する ● 学習会を実施し改善に向けて地域で取り組む ● まずは地区で考える ● 地区で広報を行う ● アプリの使い方の説明会を実施する
	行政の 取り組み	● イベント等を含め公共の交通機関の利用推進に努める ● 公共交通について住民に周知する ● 学習会の実施や改善に向けての取組みを推進するため協力する ● アプリを入れたらすぐ説明ができるように準備・対策する

【自由記載】

- 免許返納後の高齢者の希望は何なのか。今まで通り自分の自由な時間に行きたい場所に移動できることなのではないか。タクシー、ボランティア輸送、乗合交通、ライドシェア、公共バス、鉄道などそれぞれの利用の仕方があると思うが、高齢者が簡単に利用できる方法を考えていく必要があると思う。※高校生の通学問題も同様である。
- 京都丹後鉄道がなくなれば、学校がなくなった地域のように衰退することになることを心配する。

2 誰もが使いやすい公共交通のために、まずは使ってみよう

会議の中で、「バスや鉄道の利用方法が分からない」という意見や「子どもの通学のために親が毎日送迎している」という意見も上がりました。普段なかなか使うことがない公共交通ですが、自分たちが使いやすい公共交通にするためには、町民一人ひとりがまずは使ってみることが重要です。実際に使ってみることで公共交通に対する意識が変わってきます。そして、誰もが使いやすい公共交通にするには、地域でもしっかり考え、実際に利用してみて感じた意見を出しあい、いい仕組みになるよう協力していく必要があります。

「提案2」の実現に向けて、それぞれが行うこと(委員からの意見(抜粋))

改善提案	個人の取り組み	● 積極的に利用してみる ● 鉄道やバスを使い分ける ● 知らない人がいたら助ける ● 小さいころまで親と一緒に利用する ● 保護者のお迎えを軽減させる(公共交通の利用) ● 仕事の帰りに必要な方を一緒に乗せて帰る ● 休日にボランティア輸送の運転手として登録をする(働き盛りの人) ● 情報は自分で取ってくる
	地域の取り組み	● 地域みんなで利用してみる ● できるだけ混雑の時間をさけて体験してみる ● 地域内のわかりやすい場所にポスターを配布する ● 会社で利用を促進する
	行政の取り組み	● ボランティアに頼らずシルバー人材センターと協議して活用する ● 学校行事で説明する ● バスのダイヤを住民ニーズにあったものに改正する ● 鉄道への乗り継ぎなどの情報もアプリへ載せていく ● 住民も利用できる「混乗」制度を導入する

【自由記載】



- 住民一人ひとりが地域全体(自治会、町内会、その他コミュニティなど)と共助共生を意識して結びつき、しっかりとした組織づくりが必要なのではないでしょうか。

3 豊かな地域コミュニティの力を公共交通へ活かそう

多様な人々が交流し、支え合う豊かな地域コミュニティ。この与謝野町の地域コミュニティは、公共交通の充実にとっても重要な役割を果たします。公共交通は、人々の生活を支えるインフラであると同時に、地域を繋ぐ絆となる可能性を秘めています。町民一人一人が支え合い、コミュニティの力で地域の人々と一緒に利用したり、教え合ったりすることで、地域に最適な公共交通を育てることができます。また、地域の中でボランティア輸送として公共交通の一助となることもできます。

「提案3」の実現に向けて、それぞれが行うこと(委員からの意見(抜粋))

改善 提案	個人の 取り組み	● ボランティア輸送の運転手として登録する ● ボランティア輸送など、公共交通の手助けができるように努力する ● 元気な高齢者は地域のために動くようにする ● 自分で行動できることをする ● できるだけ乗合交通を利用する ● どこまで行政がやるか、どこまで自分たちがやるのかということを考える
	地域の 取り組み	● 公民館単位や隣組など地域でボランティア輸送の運転手を登録する ● お互い利用者が声を掛け合って使う ● 自治体の前向きな取組みに対して、地域でも努力する ● 近所関係をもっと近い存在にする ● 地域で支え合う ● 交通を地域で支えていくためにも、共助を大事にする ● 地域のお祭りのパワーを他の事業にも引き出すようにする
	行政の 取り組み	● 移動手段を確保できない人のニーズ(行先、頻度、頼れる人の有無)を把握する ● よさの乗合交通についての説明を徹底する ● ボランティア輸送の協力を呼びかける ● ボランティア輸送の安心・安全を担保していく(保険、運転手への安全講習)

【自由記載】



- よさの乗合交通の充実を図ってほしい。
- 利用目的を充実した内容にできる方法を考えたかどうか。

Ⅲ 与謝野町の公共交通の現状と委員からの意見

与謝野町では、鉄道、路線バス、デマンド交通など、様々な公共交通機関が運行されています。

鉄道は、京都丹後鉄道が町内を横断しており、天橋立駅や福知山駅へのアクセスを担っています。しかし、利用者数は減少傾向にあり、運行本数の維持が課題となっています。

路線バスは、丹海バスが町内を運行しており、地域住民の生活を支えています。しかし、こちらも利用者減少や運転手不足などの影響を受け、路線の維持が困難になっています。

また、交通不便地区の解消を目的として、町では、デマンド交通「よさの乗合交通」を導入し、地域住民の移動手段を確保していますが、運行エリアや時間帯が限られているため、更なる利便性向上が求められています。

これらの公共交通機関は、それぞれに課題を抱えながらも、地域住民の生活を支える重要な役割を担っています。今後、人口減少や高齢化が加速する中で、持続可能な地域公共交通の実現に向けて、まずは住民自ら地域の公共交通のことを知り、考えていく必要があります。

具体的な現状や課題については下記に記載します。



1. 京都丹後鉄道利用促進事業

《事業概況》	
●	京都丹後鉄道(KTR)が行う基盤施設整備等に対する支援のほか、利用促進を行う
	➢ 鉄道経営対策補助金 3,178 千円(固定資産税の支援)
	➢ 鉄道軌道輸送対策事業費補助金 15,710 千円(鉄道設備整備への補助)
	➢ 北近畿タンゴ鉄道支援費基盤管理補助金 33,471 千円(安全運行に必要な基盤整備・維持支援)
	➢ 北近畿タンゴ鉄道支援費基盤整備補助金 2,235 千円(設備更新支援)
	➢ 地域公共交通原油価格高騰対策事業費補助金 1,540 千円(燃油高騰支援)
《事業実績》	
●	京都丹後鉄道乗車人員 ⇒ 1,359千人(令和5年度)
●	与謝野駅利用者数((片道 200 円レール利用人数を除く) ⇒ 10,115人(令和5年度)

《課題》	● 乗車一人当たりのコストが 5,728 円と高額となっている ● 道路整備が進み、鉄道利用者が減っている ● 老朽化が進み、設備コストが高くなり、自治体負担が今後ますます重くなる
------	--

委員が考える課題

【鉄道の利用に関する課題】

- ・利用メリットの不明確さ
地元住民にとって、鉄道を利用するメリットが具体的にイメージできない
- ・便数の不足
鉄道・バスともに、便数が少なく、時間帯も限られている
- ・利用者数の減少
高校生など鉄道を必要としている人たちがいる一方で、利用者数は伸び悩んでいる
- ・将来ビジョンの欠如
鉄道の将来的な役割や、地域活性化への貢献度が不明確
- ・鉄道の維持
鉄道をつぶすことはできない(このまま何もしないとなくなってしまう)

【財政面に関する課題】

- ・赤字の継続
鉄道事業が赤字を続けている
- ・町補助負担の増加
町が鉄道事業に対して多額の補助金を負担している

【会議で出た委員の声】

個人でも、もっと啓発活動を活発にしていこう！
ラッピング列車は利用者も盛り上がるから、続けてほしい！



地域で列車の利用を促進していこう！
地区ごとにどうしたらもっと利用してもらえるかアンケートをとってみよう！



行政は、地域住民に状況を知らせて協力を要請しましょう！
学校や保育所でも使ってもらおうといいね！



2. 地方バス路線運行維持支援事業

《事業概況》	
● 幹線系統路線を運行する民間事業者に、路線維持確保のための補助金を交付する	
➢ 生活交通路線維持費補助金(バス事業者への補助金)35,255 千円	
《事業実績》	
● 路線バス乗車人員(幹線系統:伊根線、蒲入線、与謝線、峰山線) ⇒ 37万人(令和5年度)	
● 路線バス乗車人員(市町単独路線:福知山線、峰山四辻線) ⇒ 4万人(令和5年度)	

《課題》	➢ 運転手不足で路線維持が困難 ➢ 利用者が少ないため、バスの本数が減っている
------	--

委員が考える課題

【運賃と利用者に関する課題】

・運賃の維持と利用者の増加に向けた取り組み

現行の安価な運賃を維持しつつ、利用者を増やすための新たな料金体系が必要(IC チップ式カードによる割引制度など)

・時間帯による利用者の差

時間帯によって利用者が大きく変動することによる運行効率の低下やサービスの偏り

・停留所の環境

バス停でバスを待っている間、日よけやベンチもなく不便

【運行に関する課題】

・運転手不足

慢性的な運転手不足による路線の維持が困難

・路線の廃止

運転手不足を理由とした路線の廃止が懸念される

・バスの本数不足、路線不足

現状の運行本数や路線が、住民のニーズを満たせていない

・バスの存続

地域におけるバスの重要性、存続の必要性に対する強い意識が必要



【会議で出た委員の声】

なぜバスが使われないか個人でも考えてみよう！
バスを使ってみよう！



地域の行事でバスを利用してみよう！
ベンチなどを置いて、待ち時間を快適にしよう！



行政のイベントでも、バスを使ってもらおう！
利用時間に差があるので、事業者と調整できるといい！



3. 地域内公共交通確保維持事業

《事業概況》	
	● 路線バス(幹線)から離れた地域に予約型乗合交通を運行する
	➢ 予約型乗合交通の予約・配車アプリ、システム導入及び維持費用 5,764 千円
	➢ 予約型乗合交通の運行委託費用 4,402 千円
《活動実績》	
	● 予約型乗合交通利用者人数(4エリア合計) ⇒ 880人(令和5年度)

《課題》	● アプリの利用方法が分かりづらく予約が難しい(アプリの利用者が4割弱) ● 地域公共交通体系の維持をしながら、住民ニーズへの対応(運行ルールの改善等)
------	--

委員が考える課題

【利用に関する課題】

・利用者数の少なさ

人口減少に伴い、利用頻度が減少する可能性がある
利用しやすい時間帯が限られている

・予約方法

アプリが使いにくい、予約方法の周知不足
高齢者など、スマートフォンに慣れていない層が多い

【周知に関する課題】

・情報発信が足りない

デマンド交通に関する情報が十分に伝わっていない可能性がある
乗合交通を知らない人が多い(特に若年層、若い世代)

【会議で出た委員の声】



ひとりひとりが乗ってみようという意識を持とう！
近所の高齢者にアプリの使い方を教えてみよう！



地域でアプリの学習会をしよう！
みんなで体験会をやろう！



認知度向上のため、行政から情報発信を強化しよう！
乗合交通の仕組みを分かりやすく、充実させていこう！

IV 自分ごと化会議に参加して、変化したこと

アンケートを通じて、各委員が自分ごと化会議に参加して公共交通に対する意識が変わったことや気づきをまとめました。

1. 自分ごと化会議に参加して変わったこと(アンケート結果から抜粋)

- 地域の一員として自分ができることは何かを考えるようになった
- 友達と移動手段を話し合うことが多くなった
- 自分も町のために何かしようと思った
- 私の年齢(10代)でも少しは貢献できそうだと思ったので、ここで知ったことを広めていきたい
- 1人暮らしの高齢者の気持ちを考えてみるようになった

2. 会議全体を通じた感想やコメント

- 地域コミュニティに参加していきたい
- 社会を維持しようと思えば、個々が動かなければならない厳しい世の中になるが、町も頑張っておられる中で、地域住民に何ができるか考えていきたい
- 知らないことばかりだった。これからもこの町に住み続けるために自分ごととして考え、自分に何ができるか考えることの大切さを学んだ
- 若者から高齢者までこういう話し合いができることは良いことだと思った
- 今は車を運転するが、10年後には運転できなくなるかもしれないので、考えなければならない

3. 委員それぞれにとっての「自分ごと化」とは(会議の発言、アンケート結果から抜粋)

- 今後、公共交通がなくなるかもしれないと自分ごととして考えるようになった
- 将来の与謝野町がいい町であるために自分たちで考える
- 年齢を考え躊躇せず、何事も前向きに考える
- 自分のこととして捉えることができるようになり、他の人に働きかけていこうと思うようになった

自分ごと化会議

私に関係ある？ あり！